

銭

五年

画数 14
筆順
オン
ゼン

銭 銭 銭 銭
金 金 金 金
金 金 金 金
金 金 金 金

成り立ち

「わずか」という意味の「残(残57)」と、「お金の意味の「金」とを組み合わせて作った字です。

「わずかなお金」という意味を表した字で、「円」というお金の単位の百分の一という、「わずかなお金の単位」を表したものです。

「わずかなお金」という意味や、単に「お金」という意味に使われています。

お金のことを「ぜに」と言いますが、これは「セン」のなまったもので、ほんとうの訓ではありません。

五年

使い方

▽緑日(キナ)で銭がめを買ってもらいました。かわいいかめです。銭の大きさがわからないので、銭がめと言うのだそうです。

▽「一銭を笑う者は一銭に泣く」という諺があります。わずかなお金でもたいせつにしなければいけません。

▽お金のことを金銭と言いますが、銭というお金がない今では、金円と言った方がよいと思います。

熟語例

▽銭がめ(「石がめ」の子で、銭の大きさをくらいためので銭がめと言います。)

▽一銭(昭和二十年ごろまで使われていた、一番小額のお金。百銭が一円ですが、今の金銭感覚で言えば一銭は一円と考えることができます。)

▽古銭(昔のお金のこと。)

▽口銭(物の売り買いの仲介手数料のこと。仲介の口ききの代金という意味のことばです。)

▽悪銭(悪い事で行ったお金のこと。例悪銭身につかず。また、質の悪いお金のこと。)

祖

五年

画数 9
筆順
オン
ソ

祖 祖 祖 祖
示 示 示 示
示 示 示 示

成り立ち

「神さま」の意味に使われる「示(示5年732)」と、物が「つみ重なる」形を表した「且(組2年181)」とを組み合わせて作った字です。

家の祭壇(神だな)に神として祭られている、初代、二代、三代と、何代にもわたる「先祖」のことを表した字です。「先祖」とも「祖先」とも言います。

「父母の父母」のことを「祖父母」というようにも使います。

また、物事を創始した人のことを「開祖」というように使います。

五年

使い方

▽お彼岸には、いなかのお墓まいりに行き、先祖のお墓に花や線香をお供えします。

▽ぼくの家は、祖父の代まで、いなかにあつて、父の代から東京に住むようになったのだそうです。

▽わたしの父方の祖母は七十歳ですが、母方の祖母は六十五歳です。どちらも元気です。

熟語例

▽先祖(昔は、死んだ人はすべて神として家の祭壇に祭られました。これらの人々のことを「祖」と言い、「先祖」とも「祖先」とも言います。)

▽祖父(「父の父」および「母の父」のことを言います。ふつう「おじいさん」とよびます。)

▽祖母(「父の母」および「母の母」のことを言います。ふつう「おばあさん」とよびます。)

▽曾祖父(「祖父の父」のこと。ひいじいさん)

▽高祖父(「曾祖父の父」のこと。)

▽開祖(ある事を初めて開いた人のこと。創始者のこと。「元祖」とも言います。)

▽祖國(先祖代々住んでいる国のこと。)

熟語例

▽お彼岸には、いなかのお墓まいりに行き、先祖のお墓に花や線香をお供えします。

▽ぼくの家は、祖父の代まで、いなかにあつて、父の代から東京に住むようになったのだそうです。

▽わたしの父方の祖母は七十歳ですが、母方の祖母は六十五歳です。どちらも元気です。

▽先祖(昔は、死んだ人はすべて神として家の祭壇に祭られました。これらの人々のことを「祖」と言い、「先祖」とも「祖先」とも言います。)

▽祖父(「父の父」および「母の父」のことを言います。ふつう「おじいさん」とよびます。)

▽祖母(「父の母」および「母の母」のことを言います。ふつう「おばあさん」とよびます。)

▽曾祖父(「祖父の父」のこと。ひいじいさん)

▽高祖父(「曾祖父の父」のこと。)

▽開祖(ある事を初めて開いた人のこと。創始者のこと。「元祖」とも言います。)

▽祖國(先祖代々住んでいる国のこと。)

五年